



2022年12月期 第2四半期 決算説明会資料

2022年8月8日

ローランド株式会社

東証プライム市場：7944



AIRA COMPACT 『T-8』、『J-6』、『E-4』

ローランドが長年にわたって蓄積してきた電子楽器のノウハウと本格的なサウンドを凝縮して搭載。シンプルな操作で気軽にエレクトロニック・ミュージックの演奏や制作を楽しむ、新しいコンセプトの電子楽器。

今回発表のポイント

- 上半期は、**業績予想を上回る着地**。為替影響を除いても計画通り
- 新しいLifestyleの定着により、コロナ前より**一段切りあがった販売水準**が継続
- 供給課題（調達制約/コスト増）はあるが、**今期業績予想達成に向けた供給に目途**
- 外部環境の変化等を反映し、**通期業績予想を上方修正**

1 2022年12月期 2四半期 決算概要

2 2022年12月期 通期業績予想修正概要

3 補足資料

1

2022年12月期 第2四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績予想修正概要

3

補足資料

<留意事項：会計処理の変更について>

- 2022年12月期は「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日改正、2021年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から新たに適用）を適用し、当該基準に基づいた実績および予想となっています
- このため、当該基準適用前の2021年12月期の実績値に対する増減率は記載していません
- 当社においては「売上割引（売上高の約1%）」が、「営業外費用」から「売上控除」に変更となります
- 結果、**見た目上の売上高・営業利益・営業利益率が減少しますが、キャッシュフロー・純利益に影響はありません**
- ご理解の一助のため、2021年12月期と同様の基準で算出した前期比較を記載しております

上期 決算のポイント

売上高

430億円
(予想比+5.9%)

- 中国はロックダウン影響あるも、世界的な販売は**引き続き堅調**
- 円安も寄与し、**業績予想を超過達成**

営業利益

47億円
(予想比+1.6%)

- 海上輸送費が想定以上に高止まったが、販管費執行の期ズレもあり、**業績予想を超過達成**
- コスト増に対し、**価格適正化**（コロナ禍における3回目）を実行

四半期純利益¹

39億円
(予想比+12.2%)

- 大きな特別損益の発生はなし

¹ 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

上期 連結業績（対予想比）

- 売上、営業利益、四半期純利益ともに業績予想を超過達成
- **為替影響を除いても、売上は概ね想定通り、営業利益は超過達成**

(単位: 百万円)	2022年12月期 上期 ^{1,2}				
	予想	売上比	実績	売上比	予想比
売上高	40,600	100.0%	43,004	100.0%	+5.9%
売上総利益	18,000	44.3%	17,551	40.8%	-2.5%
販管費	13,400	33.0%	12,874	29.9%	-4.0%
営業利益	4,600	11.3%	4,677	10.9%	+1.6%
四半期純利益 ³	3,500	8.6%	3,927	9.1%	+12.2%

1 2022年12月期上期の予想為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

2 2022年12月期上期の実績為替レート 米ドル/円：122.90、ユーロ/円：134.30、ユーロ/米ドル：1.093

3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

為替影響（予想対実績）	
売上	+27億円
営業利益	-2億円

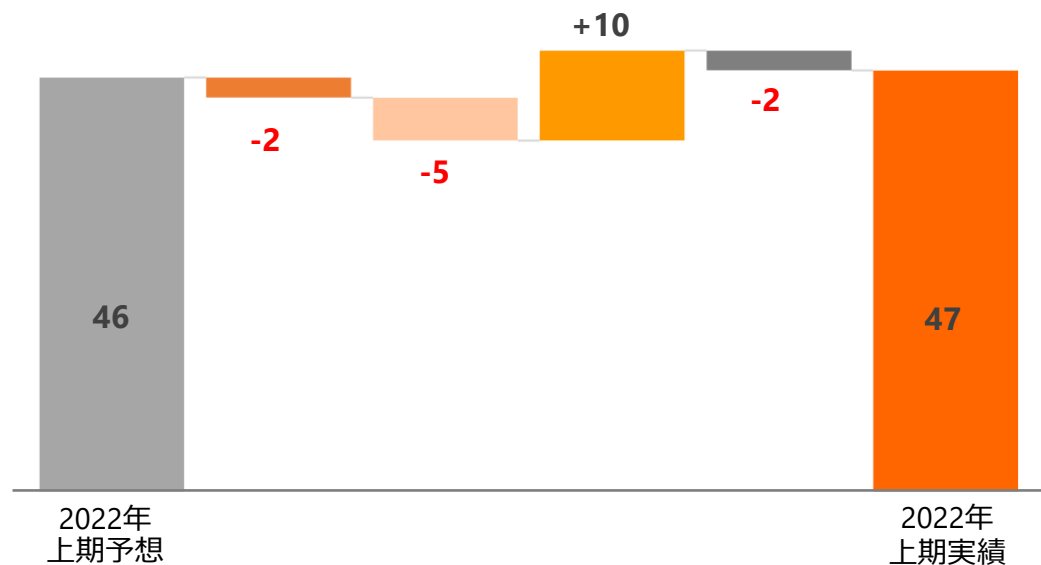
上期 連結営業利益（対予想比）

増減

主な要因

(億円)







- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響



- **販売数量変化**
 - ✓ 主に中国ロックダウン影響
- **売価/原価変動**
 - ✓ 海上輸送費の、想定以上の高止まり
- **販管費増減**
 - ✓ 製品開発・発売タイミングの変更による、研究開発費、広告販促費等の執行期ズレ
 - ✓ 中国・ロシアでの活動費減少






上期 製品別売上高

● 映像音響機器を除き概ね順調

単位：百万円	2021年12月期 上期		2022年12月期 上期			
	実績	構成比	実績	構成比	為替影響除く 対予想	コメント
鍵盤楽器	13,165	30.6%	13,761	32.0%		電子ピアノの需要は高いレベルを維持。他社含め市場への製品供給が増加。受注残の出荷が進む。
管打楽器	10,003	23.2%	9,367	21.8%		電子ドラムは、中国ロックダウンの影響、供給不足もあり若干想定を下回る。電子管楽器は市場拡大が続き好調。
ギター関連機器	10,664	24.8%	10,712	24.9%		ギターエフェクターは、今期発売したマルチ・エフェクター等が貢献。楽器用アンプは、供給不足の影響はあるが、一定程度の受注残の出荷が進み、概ね計画通りの販売。
クリエイション関連 機器&サービス	5,564	12.9%	5,836	13.6%		コンパクトタイプのステージピアノや今期発売したシンセサイザーが貢献。ダンス&DJ関連製品では、前期発売したサンプラー等が好調。
映像音響機器	2,315	5.4%	1,997	4.6%		映像関連機器では、イベント需要は回復傾向ながら、パーツ不足の影響により供給苦戦。V-MODAは新製品の販売が想定を下回る。
その他	1,317	3.1%	1,328	3.1%		楽器関連アクセサリ(ケース、ケーブル等)は概ね計画通りの販売。
合計	43,030		43,004			

上期 地域別売上高

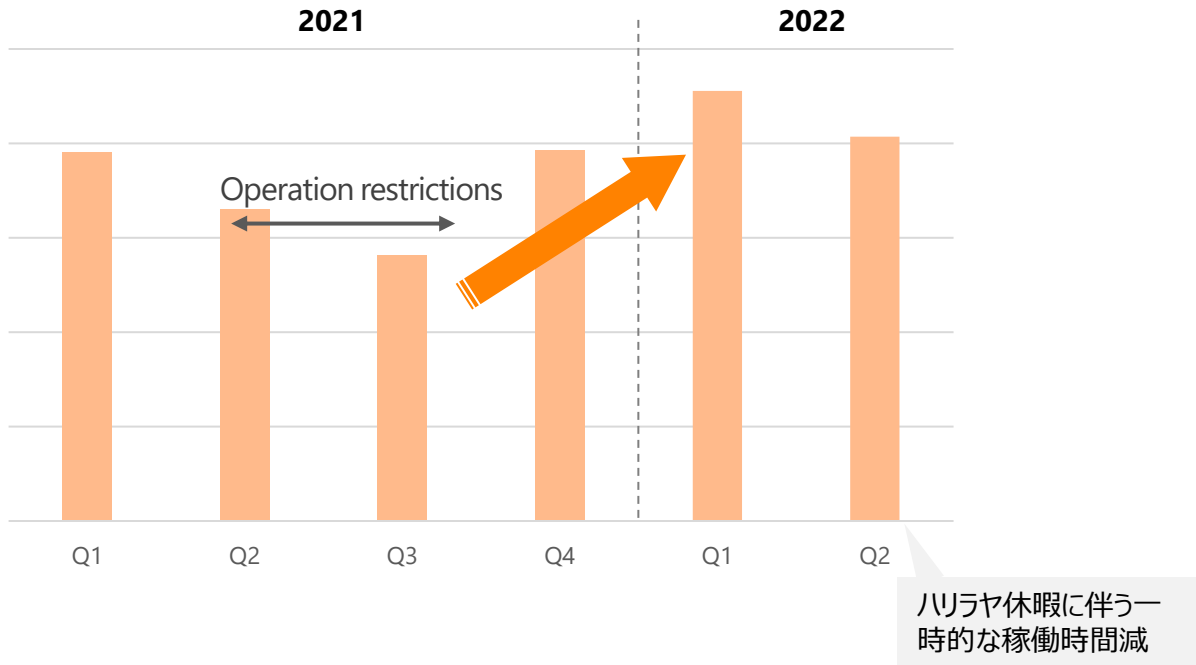
● 中国を除き概ね順調

単位：百万円	2021年12月期 上期		2022年12月期 上期			
	実績	構成比	実績	構成比	為替影響除く 対予想	コメント
日本	5,408	12.6%	4,710	10.9%		コロナ感染の減少に伴い店舗集客が回復。需要は堅調で、電子ピアノの供給も回復基調となり計画通りの販売。
北米	13,649	31.7%	15,390	35.8%		強い需要を背景に、鍵盤楽器、ギター関連製品を中心に幅広い製品群で好調な販売が継続。米国向け在庫アロケーションも寄与。
欧州	13,627	31.7%	12,131	28.2%		ウクライナ情勢悪化、インフレ進行はあるが、電子ドラム、ギター・エフェクターの販売が好調に推移。一方売れ筋ピアノの供給不足もあり計画は若干未達。
中国	4,512	10.5%	4,422	10.3%		ゼロ・コロナ政策による2ヶ月以上に及ぶ都市ロック・ダウンにより販売・物流が停滞。教育市場にも影響。
その他	5,832	13.5%	6,349	14.8%		輸送遅延による販売影響が続くものの、電子ドラム、電子ピアノが好調。アジア諸国の行動規制緩和に伴い、東南アジア、インドのプロマーケット需要も回復。
合計	43,030		43,004			

生産高は回復し安定推移、それに伴い受注残額も改善傾向が継続

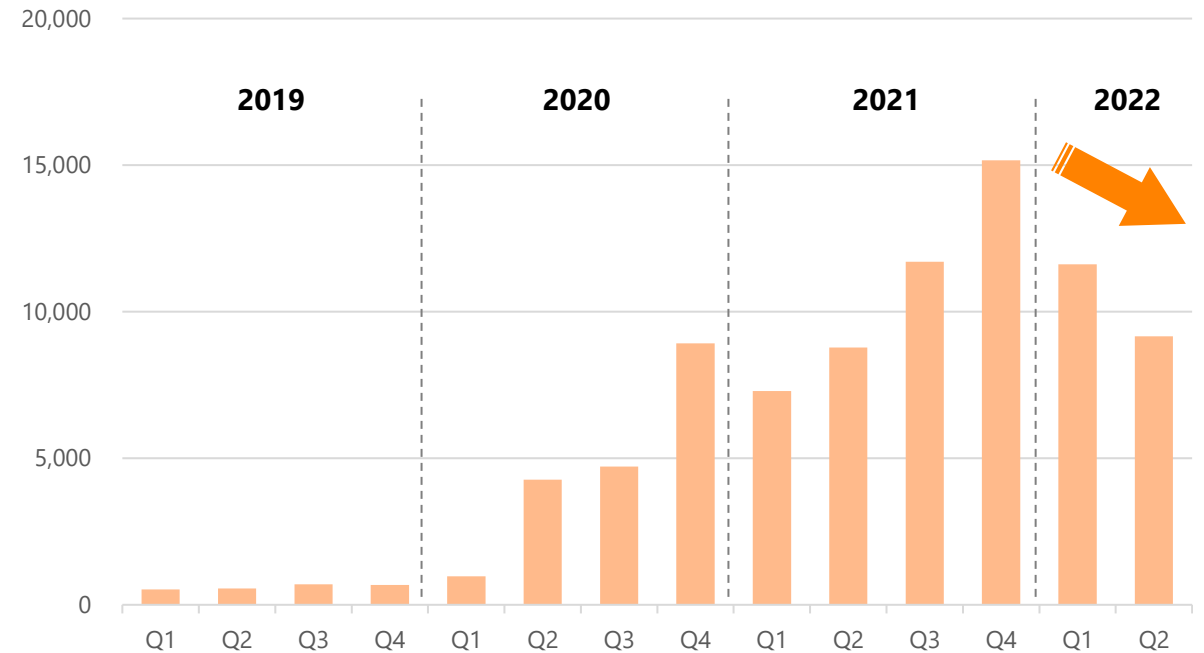
マレーシア工場生産高推移

- 生産高は回復し**安定推移**
- 労働力確保で、商戦期に向け**さらなる増産を目指す**



受注残額推移

- Q4以降の生産増加に伴い**受注残額は改善**
- 市場の在庫状況も好転



1

2022年12月期 第2四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績予想修正概要

3

補足資料

通期 連結業績予想（対前回予想比）

- 外部環境の変化および対策(後述)を反映し**上方修正**
- **為替影響を除いても、概ね当初予想通りの着地見込み**

(単位: 百万円)	2022年12月期 ^{1,2}				
	前回予想	売上比	今回予想	売上比	前回予想比
売上高	85,000	100.0%	92,400	100.0%	+8.7%
売上総利益	38,400	45.2%	40,200	43.5%	+4.7%
販管費	26,800	31.5%	27,800	30.1%	+3.7%
営業利益	11,600	13.6%	12,400	13.4%	+6.9%
当期純利益 ³	8,700	10.2%	9,800	10.6%	+12.6%

1 2022年12月期の前回予想為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

2 2022年12月期の今回予想為替レート 米ドル/円：126.45、ユーロ/円：135.65、ユーロ/米ドル：1.073

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

為替影響（前回予想対今回予想）

売上	+74億円
営業利益	+10億円

想定の見直し①為替

想定為替レートの見直し

期初想定為替レート

USD/JPY : 113.00
 EUR/JPY : 127.00
 EUR/USD : 1.124



修正想定為替レート

USD/JPY : 126.45
 EUR/JPY : 135.65
 EUR/USD : 1.073

影響額

売上

+74億

営業利益

+10億

<為替感応度>






主な通貨ペア	売上影響額（年額）	
USD/JPY	2.6億円	（1円当たりの影響額。円安が有利）
EUR/JPY	1.8億円	（1円当たりの影響額。円安が有利）

<為替感応度>

主な通貨ペア	営業利益影響額（年額）	
USD/JPY	1億円	（1円当たりの影響額。円安が有利）
EUR/JPY	0.3億円	（1円当たりの影響額。円安が有利）
EUR/USD	1.3億円	（1セント当たりの影響額。EUR高が有利）

想定の見直し②市場認識

- 新しいLifestyleの定着による**成長モメンタムは不変**
- 世界最大市場の北米を中心に好調な販売が継続
- ロックダウンの影響等により、中国市場はやや不透明だが、他地域でカバー

主要地域	期初想定	見通し	世界楽器市場 構成比
North America			~50%
Europe			~20%
Japan			~10%
China			~10%

想定の見直し③供給、コスト

- 供給状況は**徐々に改善**、順調に受注残を消化見込み
- コストの高止まりには、さらなる**価格適正化**で対応中。ただし**海上輸送費のピークは過ぎた**と認識

想定見直しのポイント

Action

供給



- 調達環境は改善傾向
- **通期業績予想の達成に向けた供給に
目途**

- 受注残の減少に取り組むとともに
在庫のある製品のマーケティングを強化
- **好調地域**への在庫アロケーション

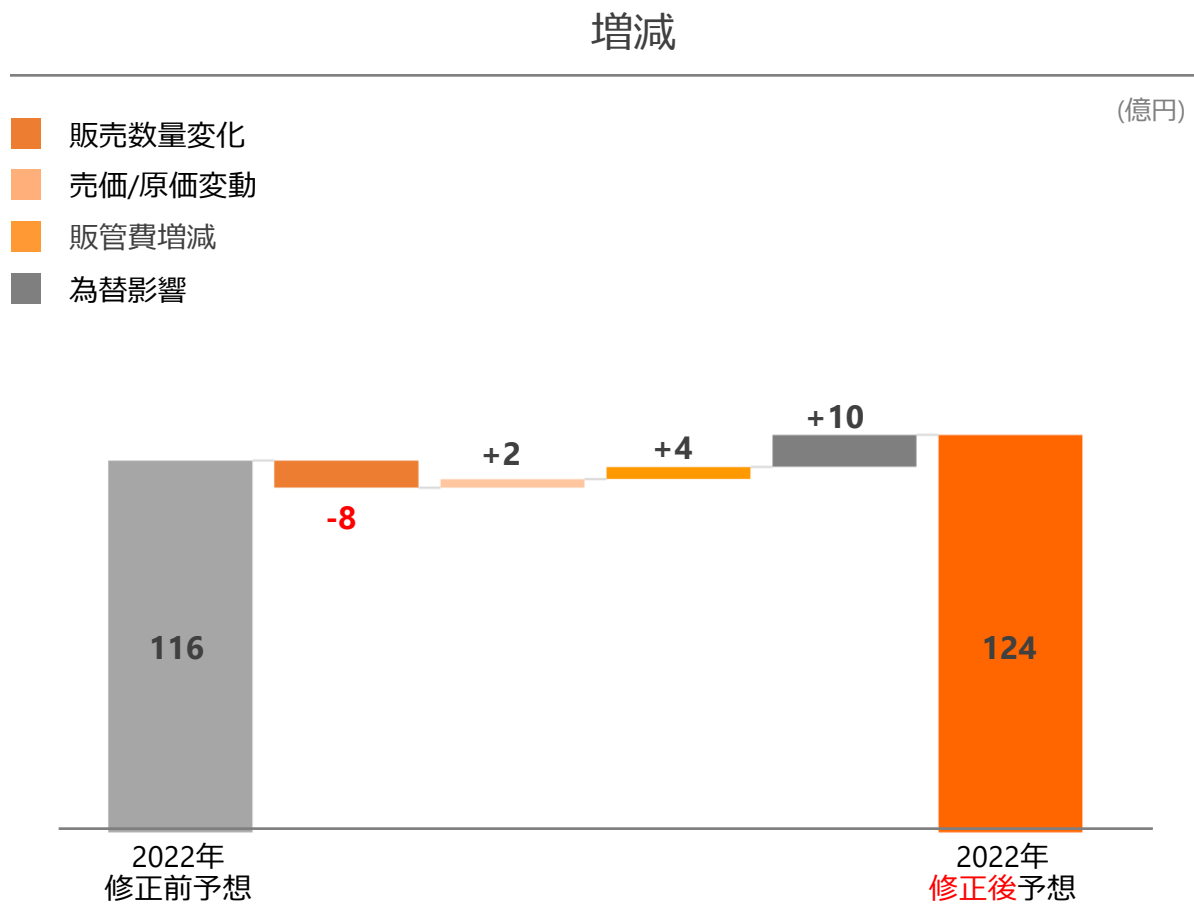
コスト



- **海上輸送費はピークは過ぎたが
高止まり**
- 材料費は下がるものもあるが
全体としては高止まり

- **更なる価格適正化**の実施(5月～8月)
- 必要に応じ経費執行内容、時期を再検討

連結営業利益予想（対前回予想比）



主な要因

- 販売数量変化**
 - ✓ 主に中国ロックダウン等による影響
- 売価/原価変動**
 - ✓ 海上輸送費が期初想定より上振れ
 - ✓ 想定以上のコスト増要因に対応するため、**価格適正化（今期2回目）を追加実施**
- 販管費増減**
 - ✓ 中国・ロシアでの活動費減少等

下期 連結業績予想（対前回予想比）

(単位: 百万円)	2022年12月期 下期 ^{1,2}				
	前回予想	売上比	今回予想	売上比	前回予想比
売上高	44,400	100.0%	49,395	100.0%	+11.3%
売上総利益	20,400	45.9%	22,648	45.9%	+11.0%
販管費	13,400	30.2%	14,926	30.2%	+11.4%
営業利益	7,000	15.8%	7,722	15.6%	+10.3%
四半期純利益 ³	5,200	11.7%	5,873	11.9%	+12.9%

1 2022年12月期下期の今回予想為替レート 米ドル/円：113.00、ユーロ/円：127.00、ユーロ/米ドル：1.124

2 2022年12月期下期の今回予想為替レート 米ドル/円：130.00、ユーロ/円：137.00、ユーロ/米ドル：1.054

3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

為替影響（前回予想対今回予想）

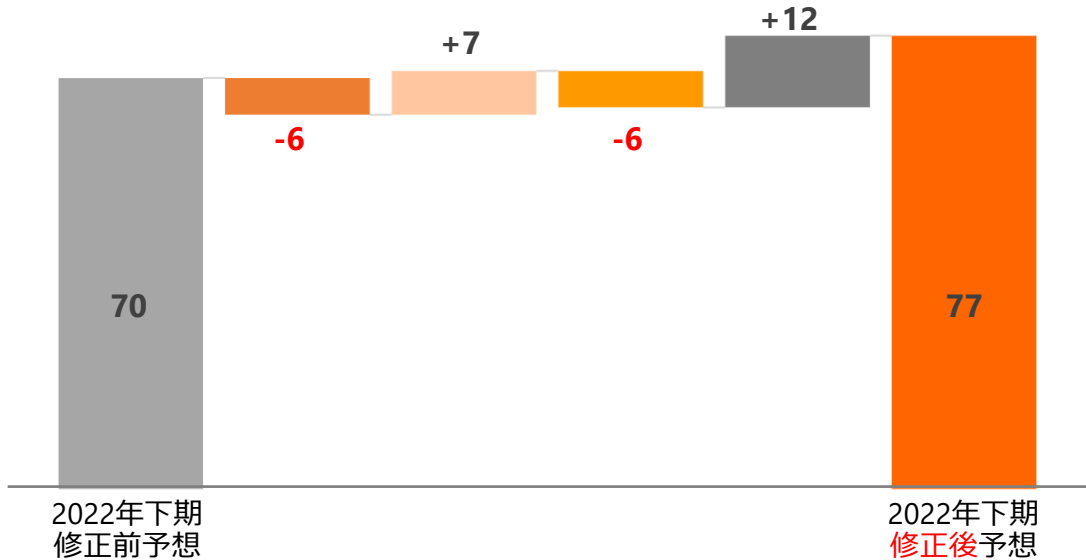
売上	+46億円
営業利益	+12億円

下期 連結営業利益予想（対前回予想比）

増減

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響



主な要因

- **販売数量変化**
 - ✓ 主に中国ロックダウン等による影響
- **売価/原価変動**
 - ✓ 海上輸送費が期初想定より上振れ
 - ✓ 想定以上のコスト増要因に対応するため、**追加での価格適正化（今期2回目）を実施**
- **販管費増減**
 - ✓ 上期未執行となっていた諸経費（広告販促費等）の執行

上期・下期別業績

- 通期では**大幅な増収増益**を見込む
- 上期・下期のバランスは、今期より通常の季節傾向となる見込み

	上期実績	下期予想	通期予想
売上	430億 ・予想比 : +5.9% ・前期比 ¹ : +1.0%	494億 ・前期比 ¹ : +34.7%	924億 ・前期比 ¹ : +16.6%
営業利益	47億 ・予想比 : +1.6% ・前期比 ¹ : -34.8%	77億 ・前期比 ¹ : +152.0%	124億 ・前期比 ¹ : +19.9%

1 「収益認識に関する会計基準」適用前の前年比

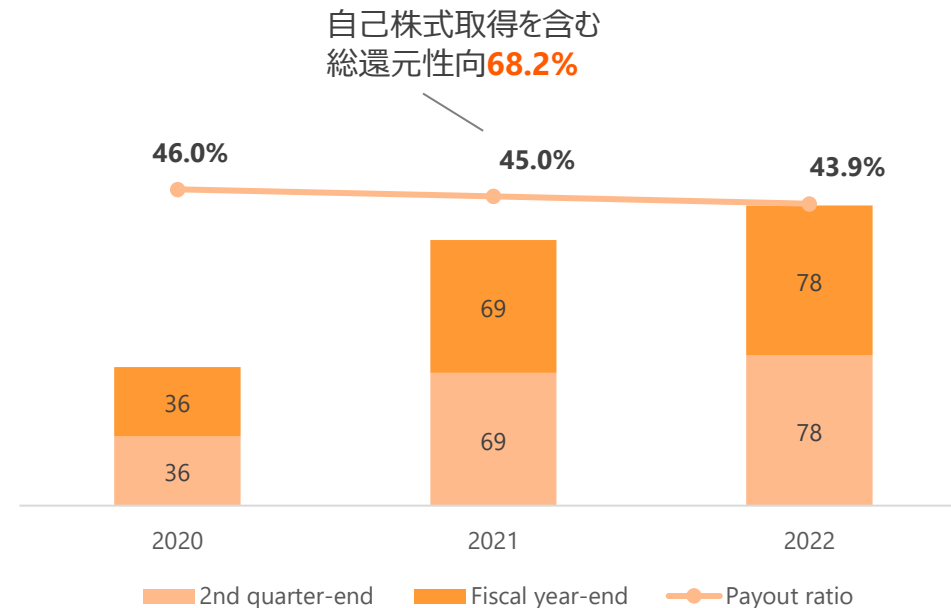
株主還元

- 第2四半期末配当は、半期業績予想の達成を受け**期初予想通りに増配**を決定
- 期末配当についても**増配予想を維持**。資金需要や投資計画を精査の上、必要に応じて修正を検討
- 連結総還元性向は**原則50%**を目指し、成長投資資金の留保が必要な場合も、連結総還元性向は30%以上を目指す

一株当たり配当（予想）

- 第2四半期末：**78円**（決定済）
- 期末：**78円**
- 合計：**156円**

配当金および配当性向推移（予想）



1 2022年12月期 第2四半期 決算概要

2 2022年12月期 通期業績予想修正概要

3 補足資料

外部環境変化時の考え方

- 当社はMBOを経て、多くの内部課題を解決、経営基盤を大幅に強化
- 結果、リーマンショック時よりも、外部環境変化に対して**高いレジリエンス**を有する

	リーマンショック時 (FY03/2010)	MBO以降 (FY03/2014-12/2019)	コロナショック時 (FY12/2020)
内部要因	<p>製品力の低下</p> <p>脆弱なコスト構造</p> <p>ガバナンスの不在</p>	<p>Game Changerへの回帰</p> <p>構造改革による効率改善</p> <p>徹底した「見える化」</p>	<p>価格適正化が許容される製品力</p> <p>柔軟なコスト削減</p> <p>積極果断かつ迅速な意思決定</p>
結果	<p>業界と共に大きな影響を受けた</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 楽器業界： -14%¹ ● ローランド： -15%² 	<p>業界を大きく上回る成長(CAGR)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 楽器業界： +1.4%¹ ● ローランド： +6.8%³ 	<p>業界を上回る環境変化への耐久性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 楽器業界： -11%¹ ● ローランド： +3%²

1 出典：米国Music Trade誌

2 為替影響を除く前年比 3 FY03/2014 - 12/2019を6期(5.75年)として計算

Roland Cloudビジネスの進捗

- これから音楽を始めたい**ポテンシャルカスタマー**へも、音楽を楽しむためのトータルソリューションを提供
- 音楽を楽しむまでの様々な「壁」を取り除く**ソリューションプロバイダー**への転換を目指す

中長期クラウドサービスのビジョン



サブスク
利用者数

2021年12月末時点

約**18,400**

2022年6月末実績

約**20,800**

- 顧客拡大に向け、様々な楽器へサービスを拡大中
 - ✓ ユーザー間で**ギターアンプ**や**エフェクター**の音色を交換できるオンライン・サービス『**BOSS TONE EXCHANGE**』を開始
 - ✓ スマホやタブレット**電子ピアノ**をつなぎ、楽しく練習、演奏できるアプリ『**Roland Piano App**』の提供を発表

上期 連結業績 (対前期比)

(単位: 百万円)	旧基準 (会計基準の変更適用前)				
	2021年12月期 上期 ¹		2022年12月期 上期 ²		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上高	43,030	100.0%	43,441	100.0%	+1.0%
売上総利益	20,326	47.2%	17,988	41.4%	-11.5%
販管費	12,480	29.0%	12,874	29.6%	+3.2%
営業利益	7,845	18.2%	5,114	11.8%	-34.8%
四半期純利益 ³	6,179	14.4%	3,927	9.0%	-36.5%

1 2021年12月期上期の為替レート 米ドル/円：107.70、ユーロ/円：129.86、ユーロ/米ドル：1.206

2 2022年12月期上期の為替レート 米ドル/円：122.90、ユーロ/円：134.30、ユーロ/米ドル：1.093

3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

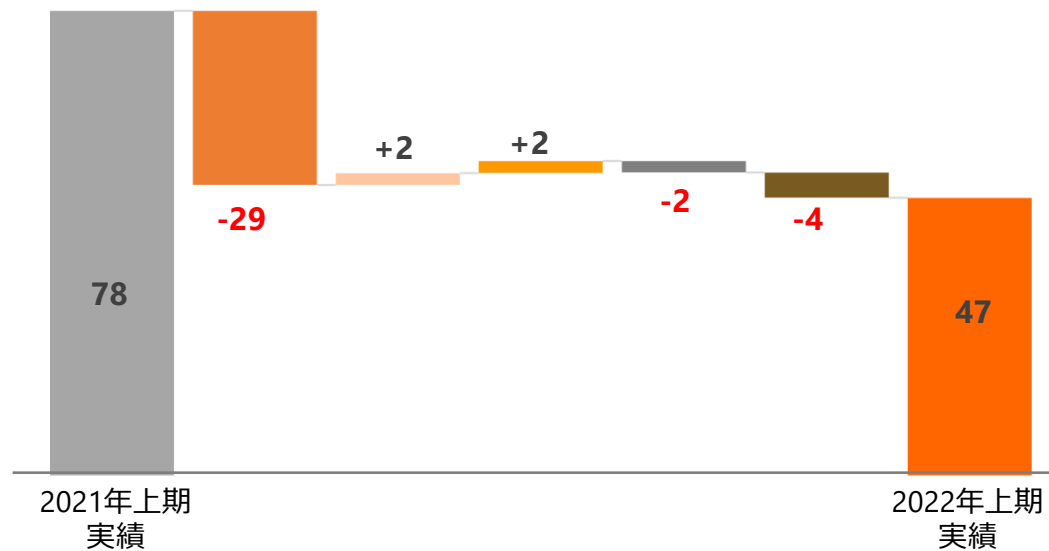
為替影響 (対前期比)	
売上	+34億円
営業利益	-2億円

上期 連結営業利益（対前期比）

増減

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響



主な要因

- **販売数量変化**
 - ✓ 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策からの反動減
 - ✓ 主に中国ロックダウン影響
 - ✓ 前期の前倒し販売からの反動
- **売価/原価変動**
 - ✓ 原材料、海上輸送費の高騰
(前上期はコスト高騰影響を受けていない)
 - ✓ 価格適正化効果
- **販管費増減**
 - ✓ 業績連動賞与の減少等

下期 連結業績予想 (対前期比)

(単位: 百万円)	旧基準(会計基準変更適用前)				
	2021年12月期 下期 ¹		2022年12月期 下期 ²		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上高	37,002	100.0%	49,858	100.0%	+34.7%
売上総利益	15,811	42.7%	23,111	46.4%	+46.2%
販管費	12,563	34.0%	14,925	29.9%	+18.8%
営業利益	3,248	8.8%	8,185	16.4%	+152.0%
四半期純利益 ³	2,406	6.5%	5,872	11.8%	+144.0%

1 2021年12月期下期の為替レート 米ドル/円：111.92、ユーロ/円：130.00、ユーロ/米ドル：1.162

2 2022年12月期下期の想定為替レート 米ドル/円：130.00、ユーロ/円：137.00、ユーロ/米ドル：1.054

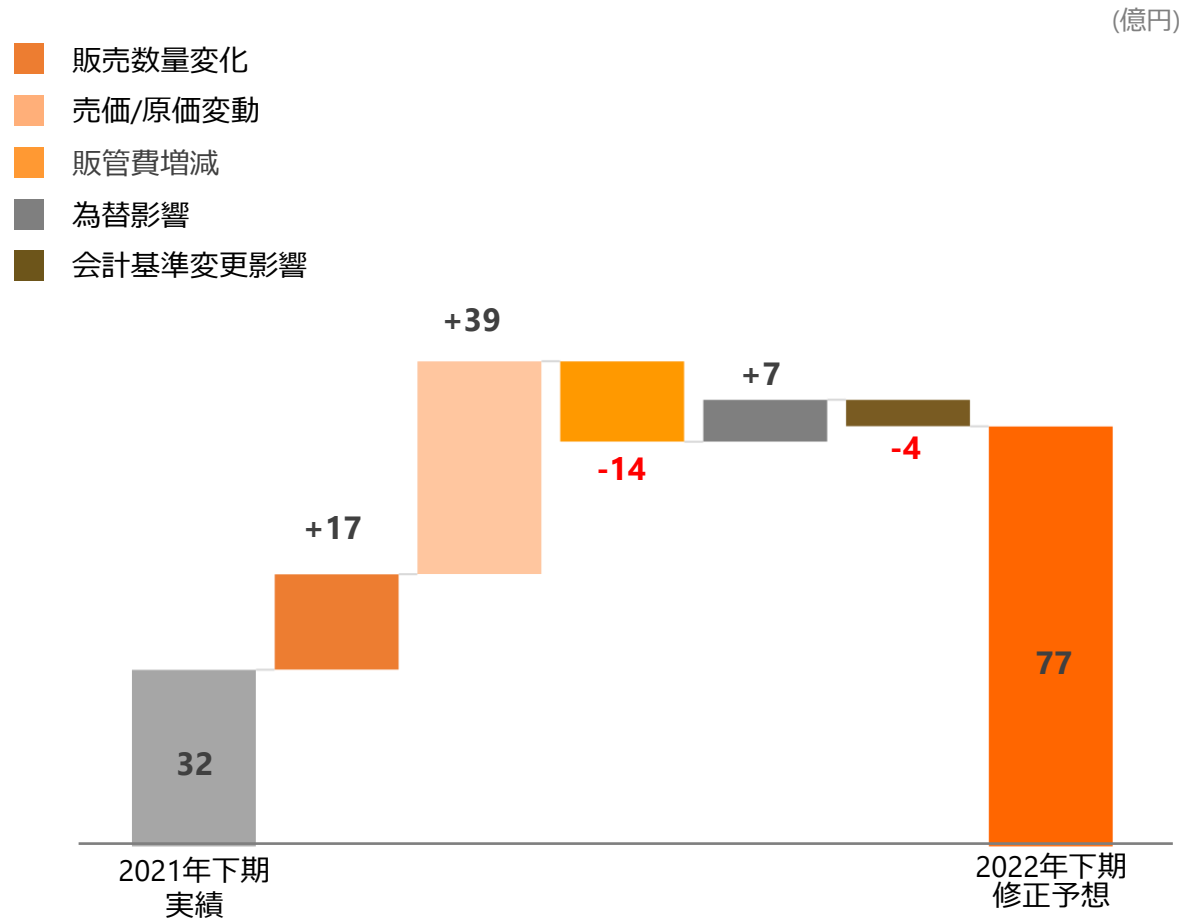
3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

為替影響 (対前期比)	
売上	+46億円
営業利益	+7億円

下期 連結営業利益予想（対前期比）

増減

主な要因



- **販売数量変化**
 - ✓ 前期の生産制約から回復
- **売価/原価変動**
 - ✓ 価格適正化効果
- **販管費増減**
 - ✓ 広告販促費のコロナ前以上の支出を計画
 - ✓ 販売増に伴う諸経費の増加

通期 連結業績予想（対前期比）

(単位: 百万円)	旧基準(会計基準変更適用前)				
	2021年12月期 ¹		2022年12月期 ²		
	実績	売上比	今回予想	売上比	前期比
売上高	80,032	100.0%	93,300	100.0%	+16.6%
売上総利益	36,137	45.2%	41,100	44.1%	+13.7%
販管費	25,043	31.3%	27,800	29.8%	+11.0%
営業利益	11,093	13.9%	13,300	14.3%	+19.9%
当期純利益 ³	8,586	10.7%	9,800	10.5%	+14.1%

1 2021年12月期の為替レート 米ドル/円：109.81、ユーロ/円：129.93、ユーロ/米ドル：1.183

2 2022年12月期の今回予想為替レート 米ドル/円：126.45、ユーロ/円：135.65、ユーロ/米ドル：1.073

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

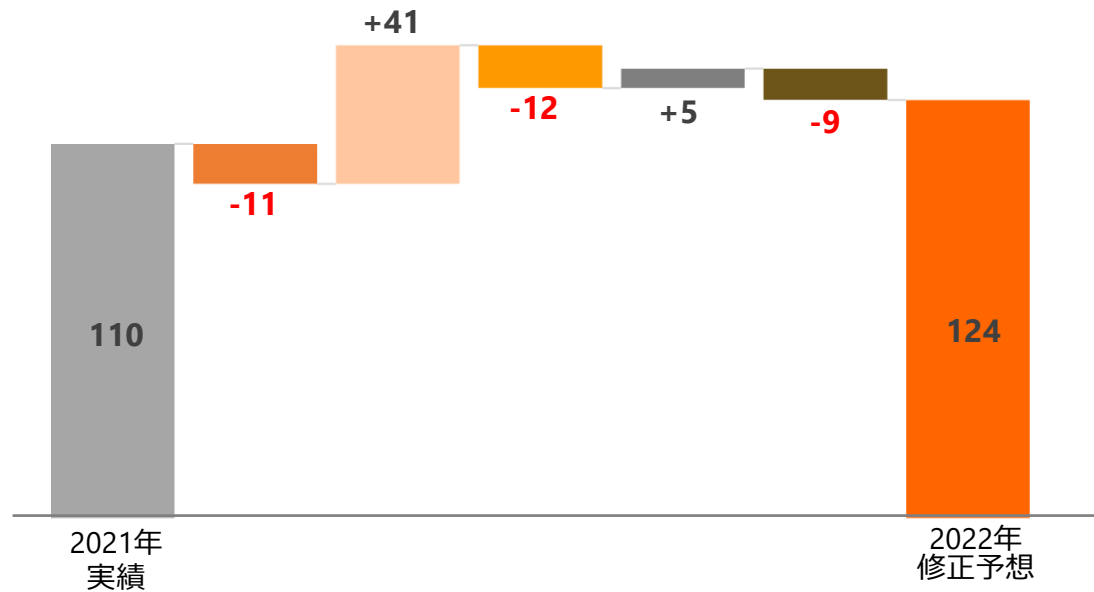
為替影響（対前期比）	
売上	+80億円
営業利益	+5億円

通期 連結営業利益予想（対前期比）

増減

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響



主な要因

- **販売数量変化**
 - ✓ 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策からの反動減
 - ✓ 主に中国ロックダウン影響等
- **売価/原価変動**
 - ✓ 前期、今期の価格適正化が寄与
- **販管費増減**
 - ✓ 広告販促費抑制を解除、コロナ前以上の支出を計画
 - ✓ 旅費交通費等の増加等

通期製品別売上高

- 管打楽器、映像音響機器のマイナスを、他カテゴリでカバー

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期			
	実績	構成比	予想	構成比	実質 ¹ 前期比	前回予想から の差異 ²
鍵盤楽器	24,792	31.0%	30,900	33.4%	+15.0%	+1.8%
管打楽器	19,053	23.8%	19,800	21.4%	-4.4%	-6.5%
ギター関連機器	19,093	23.9%	22,400	24.3%	+7.8%	+3.4%
クリエイション関連 機器&サービス	10,122	12.6%	12,100	13.1%	+10.7%	+7.3%
映像音響機器	4,282	5.3%	4,400	4.8%	-2.8%	-15.3%
その他	2,689	3.4%	2,800	3.0%	-3.0%	+3.4%
合計	80,032	100.0%	92,400	100.0%	+6.6%	-0.0%

1 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響を除く比較

通期地域別売上高（対前期比）

● 中国のロックダウン影響を他の地域でカバー

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期			
	実績	構成比	予想	構成比	実質 ¹ 前期比	前回予想からの 差異 ²
日本	9,666	12.1%	9,800	10.6%	+1.8%	+1.5%
北米	25,959	32.4%	31,300	33.9%	+6.9%	+2.9%
欧州	24,958	31.2%	27,600	29.9%	+7.1%	+1.3%
中国	8,673	10.8%	9,700	10.5%	-0.8%	-16.5%
その他	10,775	13.5%	14,000	15.1%	+14.8%	+4.2%
合計	80,032	100.0%	92,400	100.0%	+6.6%	-0.0%

1 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響を除く比較

主要連結財務数値(PL/指標/BS)

(単位: 百万円)	2021年12月期 2Q	2022年12月期 2Q	(単位: 百万円)	2021年12月期 期末	2022年12月期 2Q末
売上高	43,030	43,004	現金及び預金	8,781	8,722
売上原価	22,704	25,452	受取手形及び売掛金	7,444	10,387
売上総利益	20,326	17,551	棚卸資産合計	25,240	31,748
販売費及び一般管理費	12,480	12,874	その他流動資産	1,156	1,321
営業利益	7,845	4,677	流動資産合計	42,623	52,178
営業外損益	-389	116	有形固定資産合計	5,857	6,156
経常利益	7,456	4,794	のれん	20	21
特別損益	216	166	その他固定資産	4,305	4,421
税金等調整前四半期純利益	7,672	4,960	固定資産合計	10,183	10,598
法人税等合計	1,491	1,029	資産合計	52,807	62,777
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,179	3,927	支払手形及び買掛金	6,391	7,718
EBITDA	8,641	5,493	短期借入金	-	6,006
D/Eレシオ	0.3x	0.4x	1年内返済予定の長期借入金	1,252	1,252
自己資本比率	52.7%	51.8%	その他流動負債	8,389	7,573
Debt / EBITDA ¹	0.4x	1.1x	長期借入金	5,822	5,196
ROE ¹	48.3%	24.0%	その他固定負債	2,295	2,242
			負債合計	24,150	29,989
			純資産合計	28,656	32,788
			負債純資産合計	52,807	62,777

1 Debt/EBITDAおよびROEは年換算値

将来見通しに関する注意事項

本資料はローランド株式会社の「将来予想に関する記述に該当する情報」が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、実際の業績と大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、需要動向、為替相場の変動等が含まれます。